

# Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校

学校だより 令和5年度 3月号

HP: <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

## 第11回 卒業証書授与式

令和6年3月1日(金)、第11回卒業証書授与式が挙行されました。全校での卒業式は4年振りでした。卒業生は6年間過ごした友人や校舎に別れを告げることとなりました。



### 校長先生 式辞

暖冬による金北山、ドンデン山への早春到来の喜びと、船出を待つ両津湾に降り注ぐ春雨に一抹の寂しさも感じる今日の佳き日に、県議会議員 北 啓様、佐渡市教育委員会教育長 香遠 正浩様、PTA会長 佐藤 浩司様、石楠会副会長 小保 祥一様をはじめ、多数の御来賓と保護者の皆様の御臨席を賜り、保護者の皆様の御臨席を賜り、令和5年度新潟県立佐渡中等教育学校第11回卒業証書授与式を挙行できますことに心から感謝申し上げます。

本校六か年の教育課程を修了し卒業証書を授与された11期生37名の皆さん、御卒業おめでとうございます。将来を見据え親子で話し合い、「佐渡中等で頑張ってみよう」と僅か12歳で受検を決意し、選抜され入学して6年間学び続けたことに敬意を表します。本当によく頑張りました。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。我が子の成長した姿を御覧になり幼かった頃の思い出も伴い、感慨もひとしおのことと存じます。6年間、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

いよいよ旅立ち、自立の時です。子どもの自立は、自転車の補助輪外しと似ています。手助けをしないとなかなか一人では乗られず、手間がかかったもの。親であれば「あの日」の感動は忘れられません。失敗を繰り返し、チャレンジし続ける姿を見守り、子どもは「見ていてくれている」と安心し、できた時に褒められ、自信となりました。

卒業生の皆さんには、今日まで育ててもらった保護者の皆様への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思っています。

卒業生の皆さんは、「佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな知性と人間性を身に付け、世界的な視野で活躍する人材育成」という教育目標のもと、六年間学び考え、教え合い磨き合ってきました。本校の強みである幅広い異年齢集団での多岐にわたる学校行事、「佐渡未来学」による地域探究学習、「能楽」等の地域文化の継承、他者との関わり、異文化理解等を学び、多様な価値観、人間性を高めました。皆さんには、知性、人間性、郷土愛の三本の柱が、大きく立派に成長しました。

コロナ禍の三年間、マスク越しでお互いの表情が見えない中、不自由な生活が続きましたが、急激に変化する学びや生活のスタイルに柔軟に対応し、制限、制約の

中でも創意工夫を凝らした各種学校行事で歓喜、笑顔を見せてくれました。楽しみにしていた海外研修旅行は延期・代替して長崎となりましたが、佐世保での語学研修では異文化や異国情緒の魅力に触れることができた学年の輪を深めて戻ってきた姿を頼もしく感じました。

アフターコロナとなった今年度は最上級生として学校行事でリーダーシップを発揮したり、遅くまで学習室での学習や熱心に部活動に励んだりした姿は、後輩の良き模範、道標となってくれました。

年明け元日の能登半島地震により石川県をはじめ富山、新潟など甚大な被害に見舞われましたが、動揺を抑えながら試練に立ち向かい、大学入学共通テストを全員受験、団体戦として臨みました。

あらゆる生活の場面で我慢を強いられ互いを理解し思いやり、寄り添うように努めたことと思います。学級や異年齢集団での学びや関わりを通じた成長は、御家庭での保護者の皆様による温かい見守りの賜物であり、先程四年ぶりに卒業生一人一人に卒業証書を手渡ししながら誇りに感じました。

さて、旅立つ11期生の皆さんに、私から餞の言葉を二つ贈りたいと思います。

一つ目は「生涯にわたり自ら学び続ける姿勢を持ってほしい」ということです。伝統的な社会では先人の築いた知識や技術を体得することが「学び」とされてきました。親や先生、師匠、先輩が教えてくれたことを身に付けることにより生活に必要な知識や技術を獲得し課題解決してきました。

しかしこれからは、そうした先人たちも経験してこなかったAIをはじめ、新しい課題が次々と起こる予測困難な時代となります。未だ誰も体験したことのない技術に直面したり、正解の見えない課題に向き合ったりすることがありますが、その解決方法について誰も確かな答えを持ち得てはいません。

答えの見えない課題解決のためには、何かを記憶するための学習ではなく、自らが多くの情報を収集し、主体的に考え、選択するための探究的な学びが必要となります。そこでは、誰かが教えてくれるという受け身の姿勢ではなく、自ら学び考え、行動する能動的な学習を通じて得られた知識や経験を駆使して、自らが「最適解」を導き出すことが求められます。ぜひ生涯にわたり自ら学び続ける姿勢を持ってほしいと願っています。

二つ目は「心の回復力であるレジリエンスをもち、乗り越える力、立ち上がる力を高めてほしい」ということです。

人生は、必ずしも全て自分の思い通りにはいきません。困難なこと、苦しいこと、辛いことが多々あり、Try & Errorの連続です。程度の差こそあれ誰にでもあることで、自分だけではありません。

白血病と闘いながら克服し、東京オリンピックに出場した、競泳の池江璃花子(りかこ)さんは、「神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと思っています」と述べています。本当の苦しさ、辛さを知った彼女の言葉だからこそ、苦しんでいる方たちの希望になってほしいと望まずにはられません。

逆境に置かれた時、どう考えるか、どう対峙するか、それによってその人の幸不幸、飛躍か後退かが決まると言えます。困難や逆境から立ち直る打たれ強さ、レジリエンスをもって柔軟に適応し、思いを新たに覚悟して臨めば、困難がかえって飛躍のチャンスにもなり得ます。人が覚悟を持った時、成果は「掛け算」になります。経験や技術は「足し算」ですが、「やるしかない」と覚悟した途端、パフォーマンスや成果は何倍にも圧倒的に変わります。人間の心は自在なもので、要は考え方であり、覚悟して行動できるかどうかです。適応力のある心を養い、困難な時にこそ思いを新たに奮い立たせ、激動の社会の荒波をたくましく、しなやかに生き抜いてほしいと願っています。

それでも行き詰まる時、戸惑う時、もうこれ以上先へは進めない時、どうか母なる大地、ふるさと佐渡を思い出してほしい。ふるさと佐渡、母校佐渡中等は、まさに「港」のような存在でありたい。人生という地図のない大海原、荒海に船出した皆さんがもし航路に困った時には、遡上してくる鮭のようにいつでも温かく帰りを待っています。

お母さん、お父さん、家族が厳しく優しく寄り添い教えてくれたこと、母校佐渡中等でのかけがえのない六年間の学びから得たことを思い出し、順風満帆な時も嵐の時も、磨かれた知性と感性を駆使し、恐れることなく生きていってほしい。

校是 *Catch the WAVES* ! 夢を叶える波をつかめ!

大きな帆を立て、風を見極め、漕ぎ出してください。

そして心の片隅に、深刻な少子高齢化が進むふるさと佐渡にいつの日か何らかの貢献をしようという志を持ち続けてほしいと切に願っています。卒業生の皆さんには、未来の創り手として激変する社会にも柔軟に適応し、そして親から授かった命を大切にして命のバトンを繋げ、世のため人のためにたくましくしなやかに生き抜いてほしいと願っています。

希望に満ちた船出の日に当たり、この学舎（まなびや）を巣立ちゆく皆さんの前途洋々たる未来を祈り、御臨席賜りました御来賓の皆様、保護者の皆様のますますの御健勝を祈念して『式辞』とします。

令和6年3月1日

新潟県立佐渡中等教育学校長 白藤 恵一

## 卒業生 答辞

厳しい寒さも和らぎ、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。今日、私たち11期生は6年間の思いが詰まったこの校舎から旅立ちます。

本日は、私たちのためにこのような厳粛かつ盛大な式を挙行していただき誠にありがとうございます。また、ご多用の中、御臨席いただきました御来賓の皆様、保護者の皆様、先生方、在校生のみなさん、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

6年前、私たちは期待と不安を胸にこの佐渡中等教育学校へ入学しました。あの日から今日までの日々は長いようであっという間だったと感じます。この6年間、



さまざまな喜びや悲しみを共に分かち合い、共に成長してきました。特に思い出深いのは最後の体育祭です。まだクラスも決まっていない5年生の終わりの頃から、どんな体育祭にしたいか話し合い、準備を進めました。私たち11期生がリーダーだという自覚が全員にあったのだと思います。しかし全校を率いるのは難しく、うまくいかないこともたくさんありました。そんな時もみんなで支え合って最後の体育祭を成功させました。そこには軍団の勝敗以上の価値があったと思います。まさに6年間の集大成でした。また、教室で過ごした何気ない日々もたくさん記憶に残っています。みんなで受けた授業や休み時間のおしゃべり、放課後、用事もないのに教室で集まっていた、他愛もない時間がもう戻ってはこないと思うと、今は特別に感じられます。入学当初から今日までの間で、かけがえのない仲間になれたことがとても嬉しいです。11期生のみんな、6年間本当にありがとう。これからは別々の道へ進んで新しい場所で、ふと不安や寂しさを感じることもあるかもしれないけれど、ここまで一緒に歩んできた仲間は、みんながみんなを応援していることを忘れないでください。

在校生の皆さん、私たちは頼りになるような先輩になれていたかわかりませんが、ついてきて、支えてくれてありがとうございました。今度は皆さんの番です。皆さん自身が佐渡中等教育学校の歴史を作っていくてください。

そして、私たちを教導いてくださった先生方、先生方にはご迷惑をかけることもあったと思いますが、どんな時でも見離さず、真剣に支えてくださいました。そんな先生方のおかげで今私たちは、自分の叶えたい進路に向かって迷わず進むことができます。本当に感謝しています。先生方に教えていただいたことを忘れず、これからも成長していきたいと思います。

最後に保護者の皆様、18年間育ててくれてありがとうございました。毎日お弁当を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたり、私たちが毎日安心して学校に通えたのは一番近くで支えてくれていた皆様のおかげです。これからもたくさん心配をかけるとはと思いますが、私たちの進む道を応援してくれると嬉しいです。

私たち11期生はたくさんの人に支えてもらったことへの感謝を胸に新しい道を進んでいきます。

最後になりますが、佐渡中等教育学校のますますの発展を祈って、答辞といたします。

令和6年3月1日  
卒業生代表 藤井 真由

